

健康食品(青黛)による健康被害が起こっています

Q：青黛(せいたい)という健康食品で、健康被害が報告されたと聞きましたが、どのような症状がでるのですか。

A：青黛を摂取した潰瘍性大腸炎患者において、肺動脈性肺高血圧症が発現した症例が複数存在することが判明しました。肺動脈性肺高血圧症の症状は、労作時息切れから始まり、悪化すると安静時でも息切れするようになります。健康食品であっても予期せぬ健康被害が生じることがあります。体調がおかしいと感じることがあれば医師・薬剤師に相談してください。

2016年12月27日付けで、青黛(せいたい)を摂取した潰瘍性大腸炎患者において、肺動脈性肺高血圧症が発現した症例が複数存在することが判明した症例について通知文が発出されました。青黛とは、リュウキュウアイ、ホソバタイセイ等の植物から得られるもので、中国では生薬等として、日本国内では染料(藍)や健康食品等として用いられています。

代表的な症例の概要については別紙のとおりです。患者が自己判断で摂取した症例が掲載されています。

【 症例 】 男 50代

使用理由：潰瘍性大腸炎

合併症：なし

投与量：3g×1日2回 約13カ月間

副作用：肺動脈性肺高血圧

経過：摂取開始6カ月前に潰瘍性大腸炎と診断され、メサラジン内服開始。患者が自己判断で市販の青黛を摂取したところ、約12カ月後から労作時息切れがでるようになりました。次第に増悪し、下り坂でさえも少し息が切れるようになりました。摂取開始約13カ月後で潰瘍性大腸炎悪化で入院し、青黛摂取は中止しました。椅子に座って何もしていなくても息がしづらいことがありました。平坦な道であれば、10～15分は歩行可能。心エコーにて右心負荷・肺高血圧所見あり。

※ 本事例は6g/日でしたが、2g/日で発現した症例もありました。

青黛は近年、潰瘍性大腸炎に対する有効性が期待され、臨床研究が実施されていますが、潰瘍性大腸炎患者が個人の判断で摂取する事例が認められています。

- ① 青黛の摂取により肺動脈性肺高血圧症が生じる可能性があること
- ② 自己判断で青黛を摂取せず、必ず医師に相談するよう患者を指導すること
- ③ 肺動脈性肺高血圧症が疑われる場合には、青黛の摂取を中止させ適切な処置を行うこと

リュウキュウアイ

キツネノマゴ科の多年草。沖縄、九州南部、台湾、インドシナ半島などの樹下に生える。高さ50～80センチになり、葉はだ円形で対生する。夏から秋に枝の先に淡い紅紫色の花をつける。葉に青色の色素のインジゴを含む。



リュウキュウアイ

ホソバタイセイ

ホソバタイセイ(細葉大青)は南ヨーロッパ原産のアブラナ科の多年草。主に葉および根が用いられる。地上部は藍染にも利用される。

健康食品であっても予期せぬ健康被害が生じることがあります。普段から健康食品を摂取していることを医療者にも伝えて、体調がおかしいと感じることがあれば医師・薬剤師に相談してください。また、医療者においては、日頃から健康食品による健康被害について情報を入手し、受診者へは情報提供と受診勧奨をお願いいたします。



ホソバタイセイ

【 参考資料 】

- 1) 厚生労働省ホームページ「植物由来製品による健康被害(疑い)について, 平成28年12月27日」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/hokenkinou/houreitutu.html
- 2) 高崎市ホームページ「リュウキュウアイ」
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2015022500108/>
- 3) 国立健康栄養研究所「ホソバタイセイ」
<http://hfnet.nih.go.jp/contents/detail2961lite.html>